

小さなキャンパスに大きな輪を！

飯森 謹子

私が初めて新座キャンパスを訪れた時には、まだ現代心理学部は存在すらせず、5号館に図書館がありました。やがて、縁あってボランティアセンターのスタッフとして新座に通うようになりました。その頃センターは2号館の左端にあり、事務部からは遠いのですが、たくさんの学生が教室移動の度に通りかかるという絶好の位置にあったのです。何とか「ボラセン」(ボランティアセンターの略称)の存在を知ってもらいフラッと立ち寄って欲しいと思い、情報ボードに工夫をしたり、目を引くポスターを張ったりし、やがて少しずつ学生が来てくれるようになりました。「座キャン」(学生による新座キャンパスの略称)には開学以来、既にボランティア系のサークルがいくつかありました。そしてボラセンの手を借りなくても既に地域との関係を築いていたのです。また、外部の団体で活動し、その活動を他の立教生に伝えたいとセンターを訪れる学生もたくさんいました。私たちの役目は、ボランティアに興味のある学生と、内外を問わず安心して薦められる団体とを繋ぐこと。学生に様々な問題意識を持ってもらうこと。そして学生の活動をできる限り他の人々に伝えること。などではないかと思って今も努力しているつもりです。

新座キャンパスにおける主要な活動は、4月の新入生向けボランティアオリエンテーションと6月の講演会、そして12月のバリアフリー映画上映会「だれでも楽しい映画会」です。

オリエンテーションは、ボランティア系の学内団体の紹介をしたり、教育・しょうがいしゃ・環境などの分野に分けて関心を持つ新入生と在校生を引き合わせるなどし、不安を解消してボランティア活動へのきっかけ作りをするのに役立ちます。6月の講演会にお招きする講師を決定する際には新座の3学部に関連した方がたを選び、学生の興味や関心を喚起することに挑戦し続けてきました。バリアフリー映画上映会は、当初、ボランティアセンター主導で学生に協力をお願いするようなスタンスでしたが、学生から「もっと企画段階から関わりたい」という力強い申し出があり、今では学生実行委員会を中心となって運営しています。年を追うごとに学生たちが成長していく姿を目の当たりにするのは至上の喜びです。

新座キャンパスの特徴は、継続的なボランティア活動をしている学生が多いこと。友達の友達が実は自分の友達であった、というようにどこかでつながっていたり、間接的に知っていたりするということです。加えて野球部や水泳部、SEMBRAR、どいむ・ぼつくすなどなど地域の方々それぞれの活動が広く知られていることもあげられましょう。

新座キャンパス3学部の学生は、頼まれれば気持ちよく力を貸してくれ、将来のヴィジョンもかなり具体的に持っており、積極的で個性的な若者たちです。今後も、3学部のこじんまりしたキャンパスの有利な面を生かして、学内外にネットワークをどんどん広げていってほしいと思っています。

(ボランティアコーディネーター 新座)